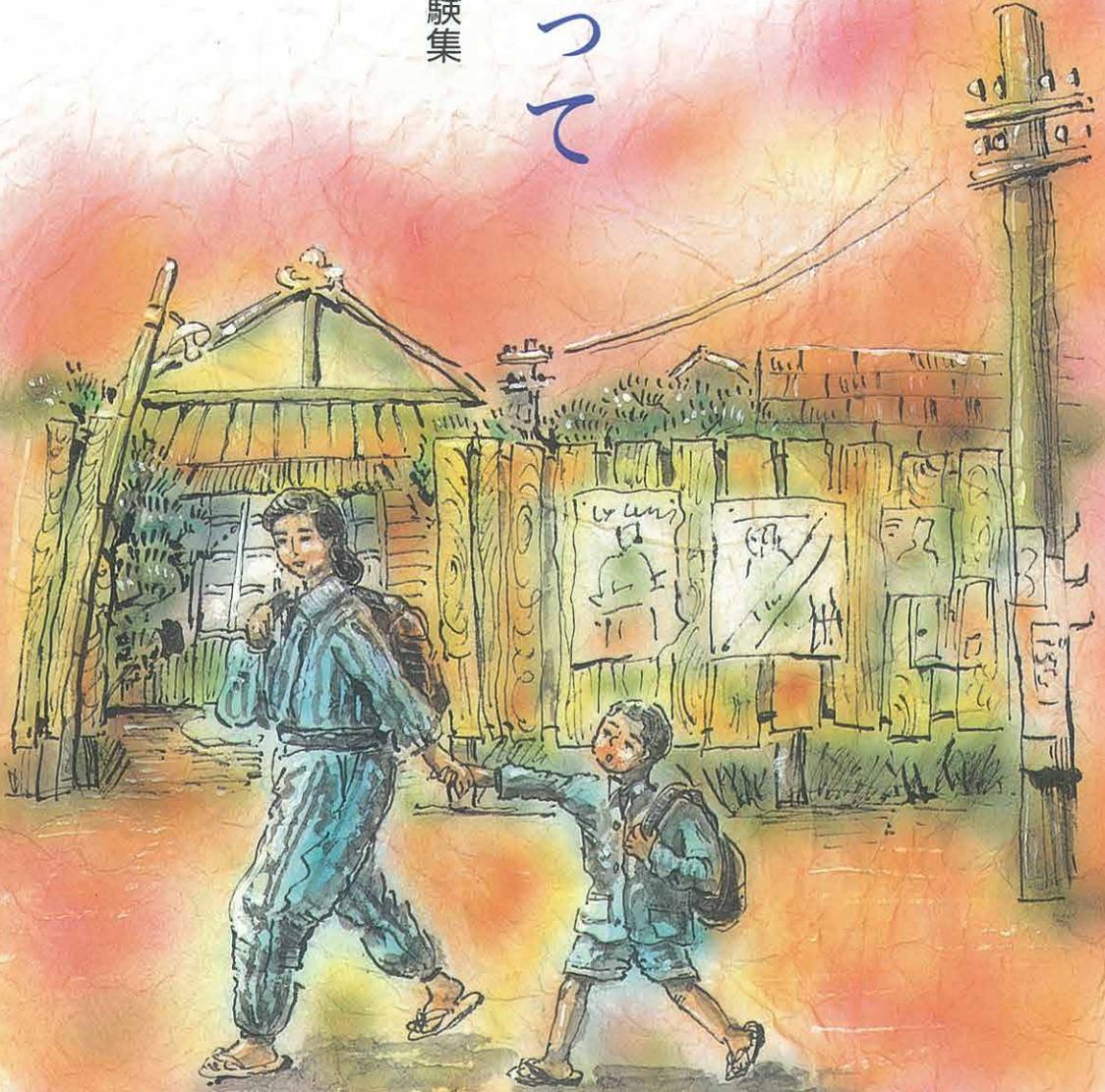


平和を願って

区民の戦争・戦災体験集



杉並区

平和を願って

区民の戦争・戦災体験集

杉並区

杉並区平和都市宣言

世界の恒久平和は、
人類共通の願いである。
いま、私たちの手にある
平和ゆえの幸せを永遠に希求し、
次の世代に伝えよう。
ここに杉並区は、
核兵器のなくなることを願い、
平和都市を宣言する。

昭和63年3月30日

杉並区

Suginami City's Declaration of Peace

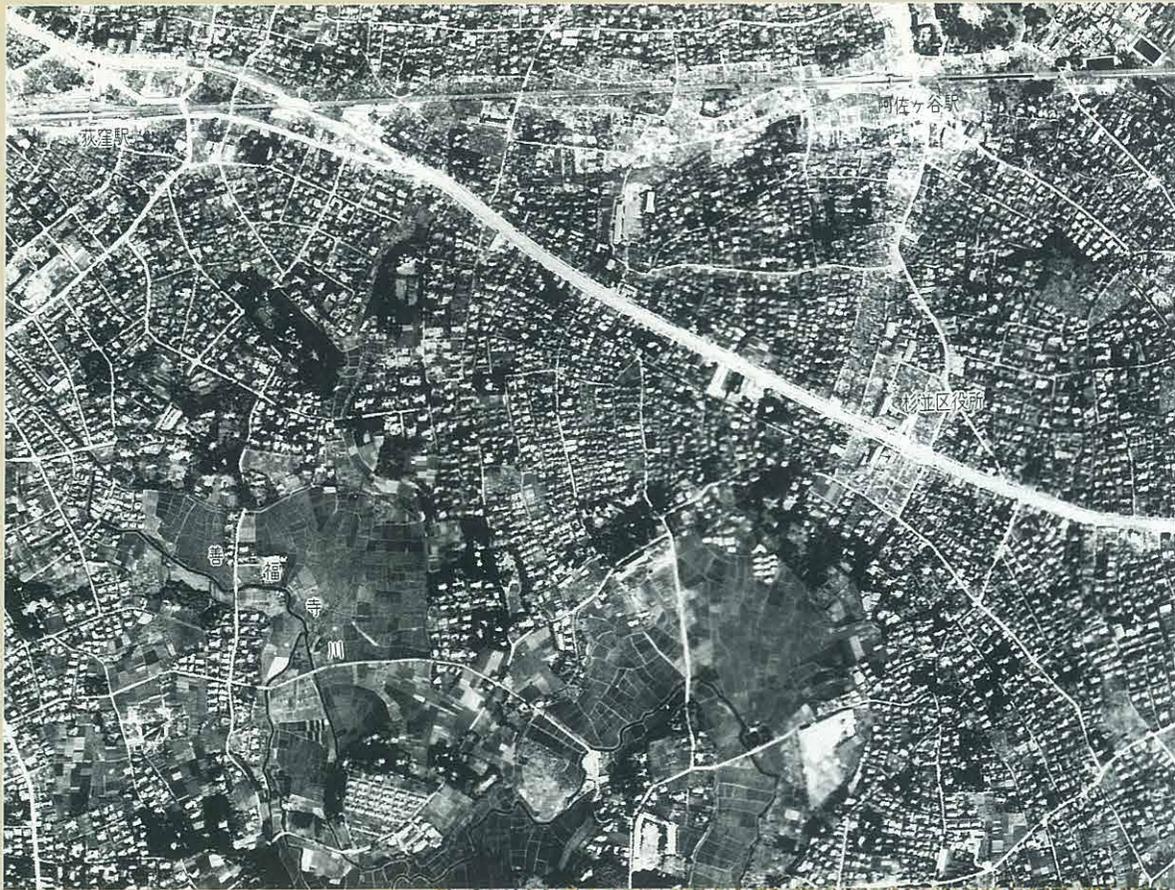
Eternal world peace is the hope of all human beings.
The happiness we now share in this time of
peace must be preserved and passed on to the next generation.
In the hope that all nuclear weapons be abandoned,
we dedicate ourselves to peace on earth.

March 30, 1988

Suginami City



平和都市宣言記念像
「ジーンズ」(佐藤 忠良氏 作)



(昭和62年6月撮影)

笑顔の奥では泣きたたかった

どうして……

一人ひとり

平和を愛するのに

どうして……

どうして

国家だとか

主義だとかになると

戦争なんだろう

どうして……

記念写真の中では

笑ってみせてるけど

みんなみんな

泣きたかった

どうして……

父の出征当日（提供 倉田陽子さん）



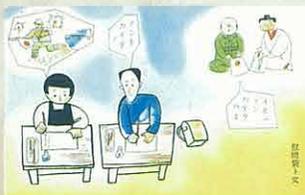




集団疎開先の富津学園の校庭にて（昭和20年4月18日）

〈提供 土屋敏子さん〉

お父さんは戦地に。
 ワタシは知らないなかへ
 疎開です。
 お母さんは、
 おばあちゃんと
 二人で無事でしょいか。
 家族が離ればなれになる
 戦争なんて……
 いやです。



ヨクサンイッカ絵はがき
 〈提供 井口金男さん〉



日本芸能社勤務で慰問に行った時の日の丸の旗
 <提供 大蔵アイさん>



(右)陸軍省報道部刊「大東亞戦争」
 (左)同文館刊「隣組配給の知識」
 <提供 井口金男さん>

「大日本国防婦人会杉並第三分会」アルバムより
 <提供 井口金男さん>



いったい
 誰のために戦うのか
 いつだって
 死となり合わせ
 銃弾に倒れていった
 戦友は
 こんな時代に
 生きてくなくなった
 と呟いていた



〈提供 薄井八重子さん〉



軍隊手帳 〈提供 湯原裕さん〉



階級章など 〈提供 前川重雄さん〉





(分團八第杉並第一小學校々庭) 分團長創示

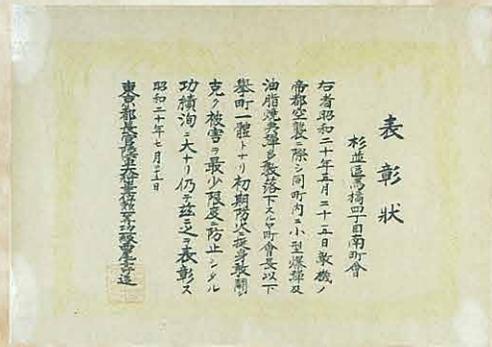
関東防空演習参加記念 杉並区防護団第八分団

〈提供 森泰樹さん〉

生まれ育った
杉並の街が燃える
思い出深い
神社の杜が燃える
家が
木々が
まっ赤な炎をあげて
燃えていく。
大切なものが
あつという間に
炎にくるまれて……



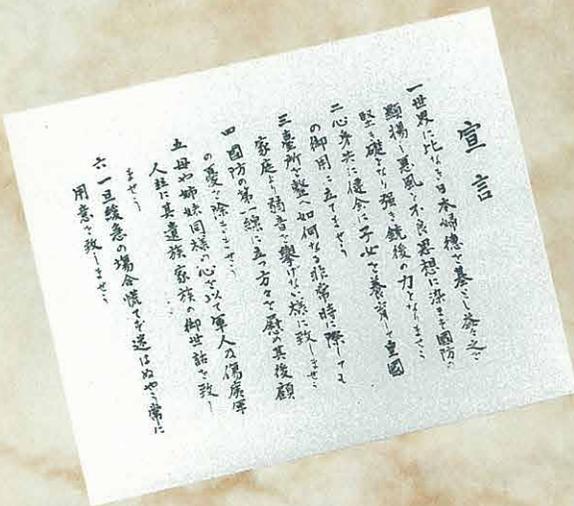
東京空襲の戦災で焼けた懐中時計、硬貨、印鑑 〈提供 大久保吉明さん〉



町会に対する表彰状 〈提供 坂野光子さん〉



防火訓練の指導（昭和17年秋—松山通り）〈提供 曾根将博さん〉



「大日本国防婦人会杉並第三分会」アルバムより
 〈提供 井口金男さん〉



総合配給所（昭和19年8月）
 〈提供 毎日新聞社〉



東京空襲B29来襲（昭和20年5月）〈提供 毎日新聞社〉



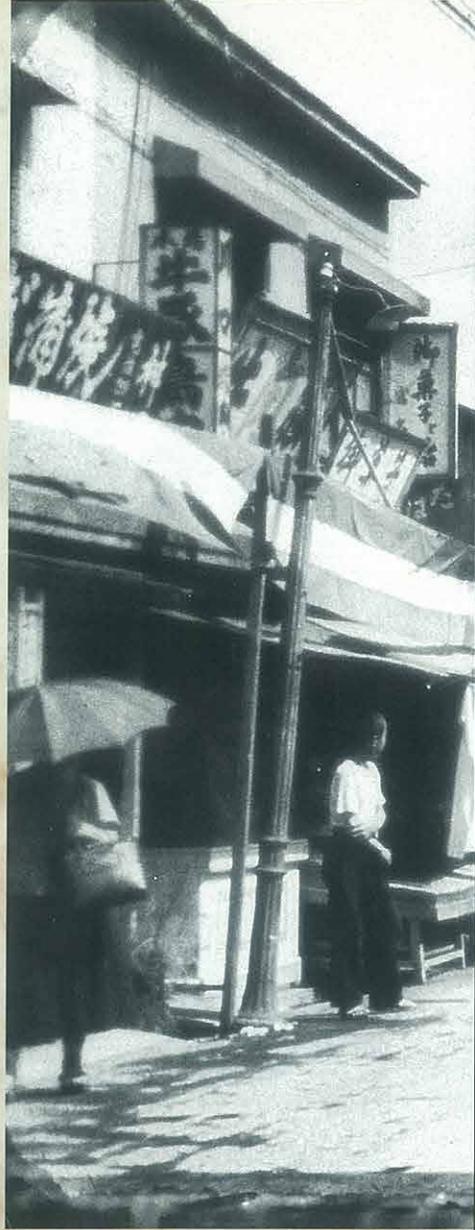
おわった
おわった
なにもかもが
おわった
……
よかつた
よかつた
ともかくよかつた
生きていける
あしたも
生きていける
大人も子供も
……
生きられるんだ!!



当時の阿佐ヶ谷駅付近 <提供 曾根将博さん>



満州から家族に送った絵はがき <提供 大久保吉明さん>



当時の松山通り付近 (昭和21年夏)
<提供 曾根将博さん>



想い出深い集団疎開当地（富津学園）へ10年ぶりに訪ねて
（昭和29年8月23日撮影）〈提供 土屋敏子さん〉



和田国民学校児童の疎開先 宝温寺
（昭和36年撮影）〈提供 高山都規子さん〉

疎開地を10年ぶりに
訪れると
友だちの中には
すでに父親だったり
母親であつたり。
もう、記念撮影の笑顔の
奥に
泣き顔はなかった
鳴らし続けよう
平和の鐘を